



# 2020

## 会社案内

## 企業理念の体系について

基本理念・社訓・社是は、創業精神を明文化した当社経営活動の拠り所・支柱となるものです。  
経営理念・グループビジョンは、これを踏まえ2018年に設定された達成すべき企業イメージ・行動指針で、時代・社会情勢などに応じて進化します。

## ■ 基本理念

# 夢と信念、情報と行動

## ■ 経営理念

# 社会に役立つ 夢ある企業への挑戦

## ■ グループビジョン

FUNAIは世界中から選ばれる製品を創る

- “世界中から” … グローバル企業として
- “選ばれる” … 業界トップシェアを目指し
- “製品を創る” … 愛される製品を開発する

## Contents

企業理念	1	トピックス	10
トップメッセージ	3	船井電機の強み	11
一目でわかるFUNAI	5	ESG への取り組み	13
財務ハイライト	6	ESG トピックス	16
事業紹介	7	沿革	17
2020年度の取り組み	9		

## ■ 社是

より良い製品を  
より厚い信用を  
より実りある共存共栄を

## ■ 社訓

困難に打ち克つファイト  
苦しみから生まれるアイデア  
最後になじみでるヒューマニティ

### 社訓について

「知・情・意」の三角形を大きくする

「知（知恵）」「情（思いやり）」「意（行動力）」。この三角形が大きくなるほど、人間としての器が大きくなる。

この三角形が大きくなっていかないと、歳を重ねても人間としては大きくなっていないということになる。たとえば三十歳を超えたら、あるいは、四十歳を超えたら、それにふさわしい技能に高まっており、人間として向上していなければならない。三角形が大きくなるほど、その人は社会に貢献できるようになる。

（出典「四十歳で五つの会社の社長になる」船井哲良）



創業者 船井 哲良



### Corporate logo | コーポレートロゴ

円から鋭く飛び出している「F」は、これまで既成概念を破ってきたと同時に、これからも力強く伸びていくFUNAIを意味しています。

また、「F」は人の手の象徴でもあり、生産・製造をあらわしています。FUNAIの高い生産性と磨きぬかれた品質を、鋭角でシンプルなイメージで示しています。



# 事業環境、市場動向を注視しながら、 着実な戦略を展開して安定的な事業運営を 目指します

船井電機は、「社会に役立つ夢ある企業への挑戦」という経営理念のもと、「FUNAIは世界中から選ばれる製品を創る」というグループビジョンを掲げ、優れたコストパフォーマンスで高品質なデジタル家電製品を、世界の市場に提供しています。



## 事業環境の変化が大きかった 2019 年度を 振り返って

はじめに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。

当社グループにおいても、部品調達の遅延や生産工場の稼働停止等の影響がありましたが、経済や市場の動向を見極め、新型コロナウイルス収束後を見据えた取り組みを進めています。

## AV 事業では事業環境の変化を見据えた戦略 を展開

当社グループの 2020 年 3 月期は、主要市場である北米向けに Android TV™ 搭載の新製品を投入、日本向けには 2019 年 7 月「録る・観る」をコンセプトに録画ができる有機 EL テレビ等を中心とする新製品ラインナップを投入いたしました。また、2019 年 6 月には新カテゴリーとなるネイルアートプリンター「CureNel」を市場投入いたしました。しかし、第 1 四半期から第 2 四半期にかけて、米国トランプ政権の関税強化措置（第 4 弾）の対象製品となった中国製液晶テレビが前倒しで米国市場に大量に輸出されたこと等を受け、液晶テレビが供給過剰となったこと等から製品価格が大幅に下落し、当社製品の販売に大きな影響が発生し、第 2 四半期累計で営業赤字に陥りました。

第 3 四半期は、中国製液晶テレビの北米向け輸出が大幅に減少して製品の需給バランスが改善いたしました。年末商戦向けに用意した 65 インチ液晶テレビの販売が好調だったこと等により、わずかながら営業利益を確保することができました。

第 4 四半期は、新型コロナウイルス感染拡大による中国サプライヤーの部品供給遅延等があったものの、当社の液晶テレビ生産拠点であるタイ工場並びにメキシコ工場における生産は概ね計画どおりとなり北米向け輸出を継続することができました。一方、中国から北米市場への液晶テレビの輸出が



新型コロナウイルス感染拡大で更に減少したこと等が当社グループに有利に働き、約1億円の営業黒字となりました。

この結果、2020年3月期の売上高は、公表値より3,425百万円増の88,425百万円（前期比16.2%減）、営業損失は同じく公表値より1,268百万円改善し1,732百万円（前期は682万円の営業利益）、経常損失は公表値より1,506百万円改善し1,594百万円（前期は1,392百万円の経常利益）となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は固定資産の減損等の結果、公表値より808百万円改善し、2,392百万円（前期は2,613百万円の親会社株主に帰属する当期純利益）となりました。

## 新型コロナウイルス感染症の影響と対策

前述の通り、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本年3月以降、当社も部品調達の遅延や生産工場の稼働停止といった影響が生じております。これらの状況を受け当社グループでは、2つの対策を進めて参ります。

1つ目は「調達面での対策」です。今回、中国への部材調達依存により、中国部品メーカーからの部品供給遅延が発生したことから、今後の最適なサプライチェーン構築に向けて、原産国の多様化を検討します。

2つ目は「生産面での対策」です。フィリピン・リマ工場及びメキシコ工場で操業が停止し、供給に遅れが出たことから、今後はバックアッププランの検討を進めていきます。

これらの対策を確実に推進するとともに、9ページ「2020年度の取り組み」でお伝えしている通り、事業環境や市場動向を注視しながら、安定的な事業運営を進めて参ります。

## 次のステージに向けた成長を目指して

世界経済、国内経済は今後も先行きが不安定な状況が続くと予想されます。当社グループでは、そうした変化に柔軟に対応しながら、ESG（環境・社会・ガバナンス）を企業経営の基本とし、環境問題や資源・エネルギー問題等の社会課題に対し、製品・システム・サービスを組み合わせたソリューションの提供に取り組み、「持続可能性と安心・安全・快適性の両立」をはじめとする価値創出を推進して参ります。

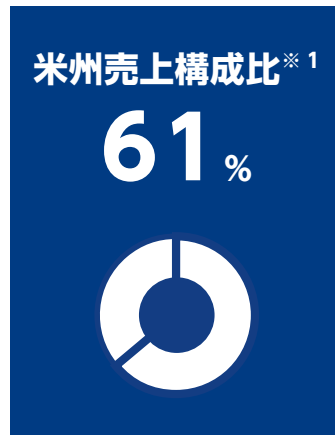
厳しい状況だからこそ、私たちがこれまでに培ってきた独自技術や創意工夫などのポテンシャルが生かせる場面も増えていくと考えています。これからも、世の中のニーズを捉えた優れた製品を世界市場に投入していくことで、次のステージに向かって成長を続けて参ります。

代表取締役 執行役員社長

船越 秀明

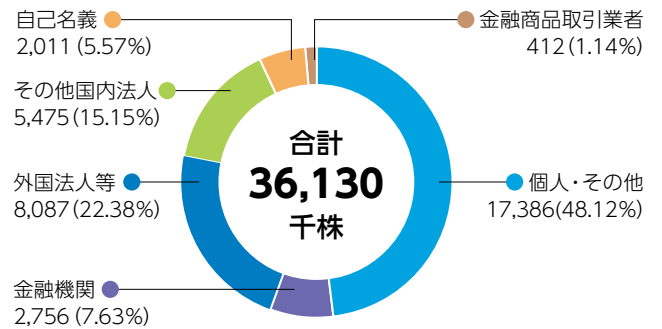
# 一目でわかる FUNAI

東京証券取引所市場第一部



## 株式分布状況

(単位：千株)



※1 2020年3月期連結業績 ※2 2020年3月31日付

## 売上高

**4% 38 億円**

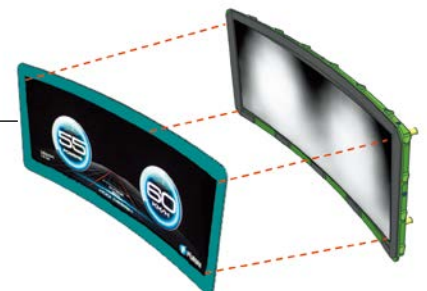
プリンティングソリューション事業



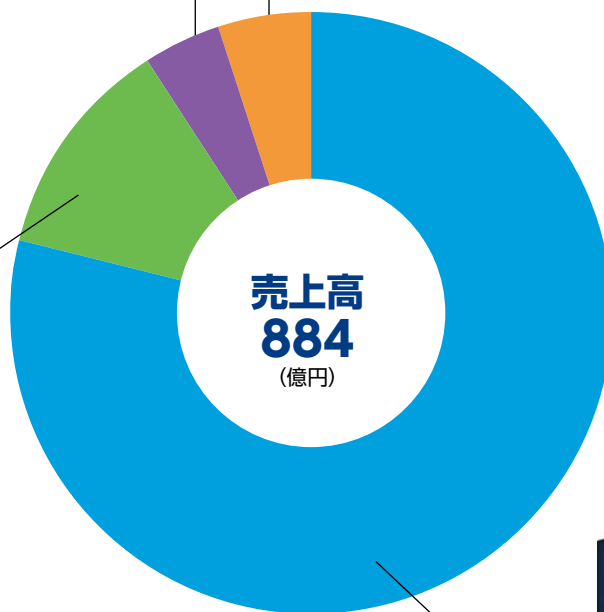
ネイルアートプリンター

**5% 46 億円**

開発・新規事業



車載用バックライトユニット



**12% 105 億円**

デジタルメディア事業



HD ブルーレイ

**79% 695 億円**

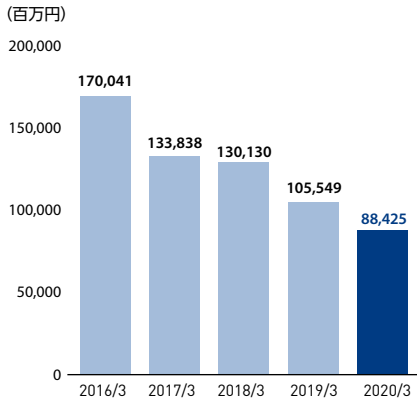
ディスプレイ事業



米国市場向け 65 インチ Android TV™

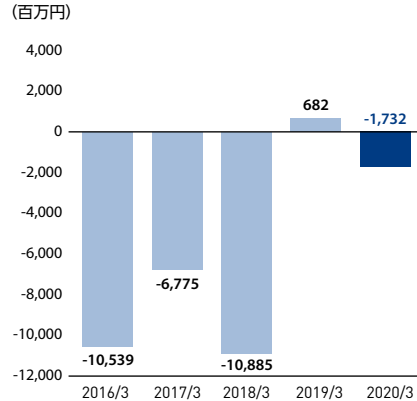
# 財務ハイライト

## 売上高



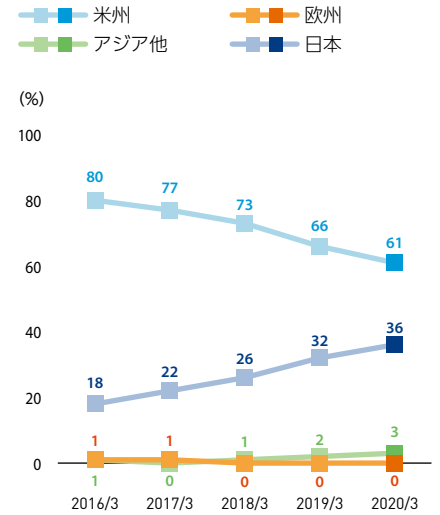
上期において北米における液晶テレビの価格下落により、当社新製品の販売が伸び悩み、通期でも上期の減収分を補いきれず**前期比 16.2%の減収**となりました。

## 営業利益



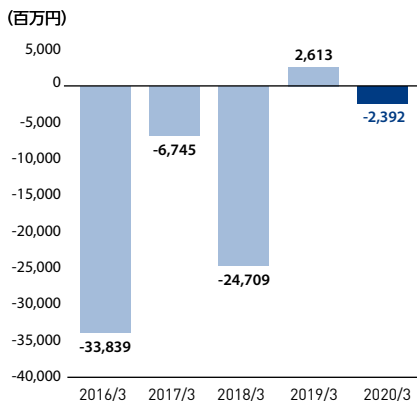
減収に伴う減益と、売上から原価と販売費を控除した付加価値の低下により、**1,732百万円の営業損失**となりました。

## 売上構成比



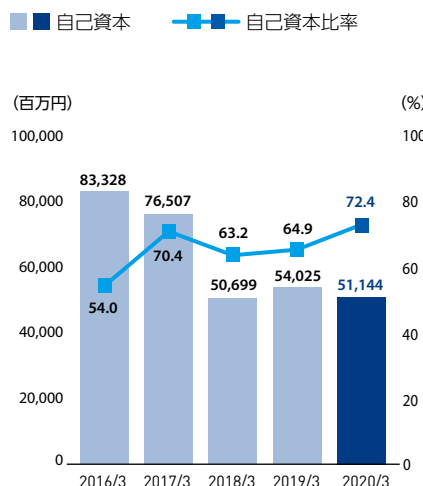
米州は液晶テレビの販売不振で減収となり、日本はほぼ売上が横ばいとなったことから日本の販売構成比が向上しました。

## 親会社株主に帰属する当期純利益 (損失)



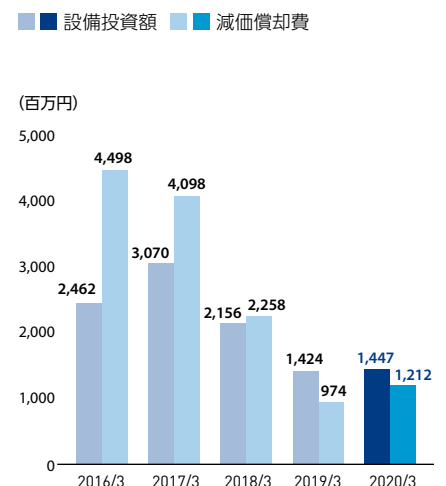
営業損失に伴う固定資産の減損、北米市場の需要縮小に伴う繰延税金資産の見直し等により**親会社株主に帰属する当期純利益は 2,392百万円の損失**となりました。

## 自己資本・自己資本比率



在庫の削減が進んだこと等から自己資本比率は前年同期に比べ**向上し 72.4%**となりました。

## 設備投資額・減価償却費



設備投資額は前期並みの**14億円**、減価償却費は**2.3億円増加**しました。



# シンプルで高品質な製品を世界に



ハードディスク内蔵有機 EL テレビ <7030 シリーズ>

創業以来、コストパフォーマンスと品質に優れた製品開発力と供給力を発揮し、世界のデジタル家電市場で確かな信頼を築き上げてきた、船井電機。

現在は、薄型テレビを扱う「ディスプレイ」、BD（ブルーレイディスク）関連製品などを扱う「デジタルメディア」、プリンター関連製品を扱う「プリンティングソリューション」、更に歯科用 CT スキャン装置や車載関連製品などの高品質製品を開発製造する「開発・新規事業」の4つの領域で、幅広く事業を展開しています。

主力であるディスプレイ事業では4つのブランドで小型から大型までの薄型テレビを、デジタルメディア事業ではBD関連製品を、それぞれ国内・北米向けに展開しています。これらのAV製品は、その優れた供給力と価格競争力が評価されており、特に薄型テレビは北米市場で日本メーカーとして

はトップクラスのシェアを誇っています。

プリンティングソリューション事業ではインクカートリッジや特殊プリンター製品を、開発・新規事業ではOEM（受託製造）顧客との強固なパートナーシップを活かして、高付加価値の製品の開発・製造販売を実現しています。

世界のデジタル家電市場は、台頭する中国・台湾・韓国メーカーとの機能やデザインおよび価格面での競争が激化する中で、厳しい淘汰の時代を迎えています。

しかし、こうした厳しい環境にあるときこそ、独自の先行開発力と強固な生産体制を有する船井電機の真価を発揮するチャンスと捉えています。消費者のニーズにマッチした製品をスピーディに開発・生産し、コストパフォーマンスと品質に優れた製品を世界の市場に提供することで、ブランド価値の向上とシェア拡大を図っていきます。

## 展開する製品ブランド

» 国内で展開しているブランド

**FUNAI**

» 北米で展開しているブランド

**Philips** **Magnavox** **SANYO**



## ディスプレイ事業



米国市場向け 65 インチ Android TV™



### 世界が認めた高画質映像 日本の有機ELに新しい選択

3つのブランド (Philips、Magnavox、Sanyo) を展開する北米市場では、日本メーカーとしてトップクラスのシェアを維持しています。国内市場では、2017年からヤマダ電機での『FUNAIブランド』独占販売を開始し、順調に販売を拡大しています。

## デジタルメディア事業



HD ブルーレイ



### AVユーザーの感動を誘う 高画質での同時録画機能

北米市場では、2016年から4K Ultra HDブルーレイ対応BDプレーヤー市場に参入し、国内市場においても、2018年7月からヤマダ電機独占販売の『FUNAIブランド』において4K Ultra HDブルーレイ対応BDレコーダの販売を開始。薄型テレビとトータルに拡販を進めています。

## プリンティングソリューション事業



ネイルアートプリンター



### あらゆる印刷ニーズに応える プリンティングビジネスを展開

1997年からインクジェットプリンター製品のOEMを担ってきたノウハウを活かし、本格的に事業展開。サーマルインクジェット技術を活用した自社開発の業務用インクカートリッジやネイルアートプリンターをはじめとし、B2BならびにOEM分野において、さまざまな用途に対応するプリンター関連製品を製造しています。更に、世界最大の日用消費財メーカーザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーと提携し、美容分野への製品を投入して参ります。

## 開発・新規事業



歯科用CT



### 幅広いOEMニーズに 最新技術・最適生産で対応

米国市場向け歯科用CTスキャン装置の生産を行っていること、産学連携により大学医学部と一緒に介護用ベッドの開発・試作を進めていることなど、メディカル・ヘルスケアの領域において、幅広いニーズに高い技術力でお応えしています。そのほか車載機器の開発にも取り組んでおり、当社の光学技術をベースとしたメーターパネルや、駆動用インバーターなどの部品・モジュールの供給を行っていきます。

# 2020年度の取り組み

## ディスプレイ事業



### 米国市場

昨年度に続き 32 インチと 65 インチ・75 インチを戦略モデルと位置づけます。32 インチについては積極展開で販売数量増を図り、65・75 インチといった大型モデルの拡販により平均単価の向上を図っていきます。テレビ本体に音声認識機能を組み込み利便性を高めた第 2 世代 Android TV™、音声認識機能が向上した新キッチンテレビ等の付加価値の高い製品も市場投入します。

### 国内市場

6 月から世界初となる HDD 内蔵有機 EL Android TV™ をはじめとする新モデル全 10 機種を投入します。

## プリンティングソリューション事業



### 紙以外の立体物への印刷を可能に

食品等に簡単に印刷することができる可食インク等を利用し、紙媒体以外の立体物への印刷を可能にした製品の事業化に注力します。

### カートリッジ評価キット

当社のインクジェット技術のアプリケーションを提携先に拡大させるため、カートリッジにインクを充填するだけで、インクの性能評価を簡単・スピーディに実施できる「カートリッジ評価キット」を導入し、事業化支援のスピードを加速させていきます。



フードプリンター



カートリッジ評価キット



カフェアートプリンター

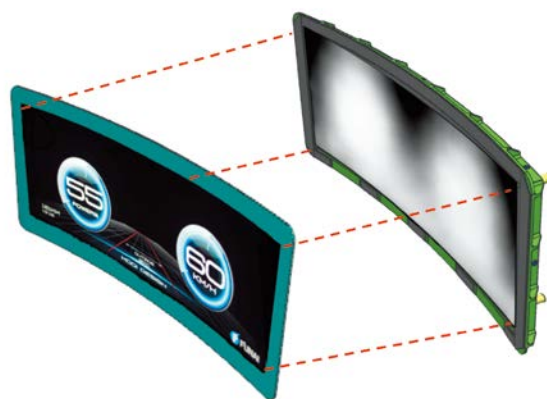
## 開発・新規事業



### 車載関連機器

テレビの開発で培った映像・光学技術を活用したダイレクトバックライトの量産を 2020 年 6 月から開始しています。

また、2019 年に提携した自動車用ろ過器メーカー株式会社 ROKI と共同で、モーターサイクル向け機器の開発をスタートしています。



車載用バックライトユニット

### 医療用関連機器

2020 年 5 月に完全子会社化した歯科用 CT 機器の開発販売会社プレキシオン株式会社の製品は米国の専門家、医師からも評価をいただいております。今年度中に新製品を市場に投入していく予定です。また、インクジェット技術を活用したライフサイエンス技術について、業界大手との共同開発を進めているほか、産学連携により、介護用の体位変換マットの開発を進めています。

# トピックス

## TOPIC アライアンスによる新規事業の創出を加速 NTT ぷららとの提携成果の第 1 弾を発売

当社は、2020年7月から業務提携を行っている株式会社NTT ぷららとの提携商品第1弾としてブルーレイディスクレコーダ「HBD-WA10」を発売しました。当社は、2019年6月に同社との業務提携を発表、「ネットワーク通信技術や映像配信サービスに関するノウハウ」と当社の「長年培ってきた映像技術とグローバルな生産体制」を掛け合わせることで、家庭の生活プラットフォームとなる新しい製品サービスを提供することを目指しております。今回発売したブルーレイディスクレコーダは、当社が提供するサービス「ひかりTV」で録画<sup>\*</sup>したUSBハードディスク内の番組をブルーレイディスク/DVDにダビングできる初の製品であり、当社が運営するショッピングサービス「ひかりTVショッピング」等で購入できます。

当社は経営戦略として、当社の独自技術と他社の技術を融合させて新たな製品サービスを創出し新規事業を育成強化するアライアンス戦略の推進を掲げております。今後も同社との協業を推進していくとともに、当社グループの企業価値向上に資する業務提携についても積極的に展開して参ります。

<sup>\*</sup>ひかりTVで配信している番組（地上・BSデジタル放送・専門チャンネルなど）が録画できます。

## TOPIC 世界初のハードディスク内蔵有機EL Android TV™ を市場投入

2020年6月よりハードディスク内蔵有機ELテレビとして初めてAndroid TV™を採用した7030シリーズを含む4シリーズ全10機種種の発売を開始し、全国のヤマダ電機グループで独占販売を行っているFUNAIブランドテレビのラインナップを刷新しました。今回のラインナップは「観る・録る・ひろがる」をコンセプトに、更なる高精細画質、高音質を実現、加えて多彩な録画機能やインターネットにつなげて新たな楽しみ方が広がるAndroid TV™を採用し、FUNAIの技術力を表現する製品となっております。

最上位機種である7030シリーズは、ハードディスク内蔵の有機ELテレビとしては世界初<sup>\*</sup>となるAndroid TV™となります。世界中の映画作品や劇場で採用されている立体音響技術「Dolby Atmos」にも対応しており、背面に配置したハイトスピーカーの採用により本体だけで立体感あふれるサウンドを実現しました。これまでの多彩な録画・再生機能に加え2TBハードディスクを内蔵することで、大容量録画も可能となりました。

全シリーズで4K衛星放送チューナーを搭載しており、4K放送視聴だけでなく、4K放送の裏番組録画も可能です。

新シリーズの発売に合わせて、テレビCMも全国で放映開始されました。

<sup>\*</sup>2020年3月末現在、船井電機調べ



ハードディスク内蔵有機ELテレビ  
7030シリーズ

## TOPIC 歯科用CT機器の開発販売会社 プレキシオン株式会社を子会社化

2020年5月31日、歯科用CT機器の開発・販売会社であるプレキシオン株式会社の全株式を取得し、連結子会社としました。当社は事業ポートフォリオの再構築を実現するため、現在の主力である薄型テレビ事業以外の新たな経営の柱として、収益性の高い医療・ヘルスケア分野に注力してまいりました。プレキシオン株式会社はこれまで当社に歯科用CT機器の製造委託を行っていましたが、今回の子会社化により当社グループとして本事業に製販一体で本格参入し企業価値の向上を図ります。

### プレキシオン株式会社

本社：東京都千代田区

事業内容：医療画像診断機の開発・販売



歯科用CT



**Design 設計**

## 更なる競争力強化を目指す

高付加価値化、部品点数の削減、現地設計、最適地生産。

船井電機は、高付加価値商品とコスト競争力を両立させ、グローバルな競争に打ち勝つ更なる競争力の強化を図っております。

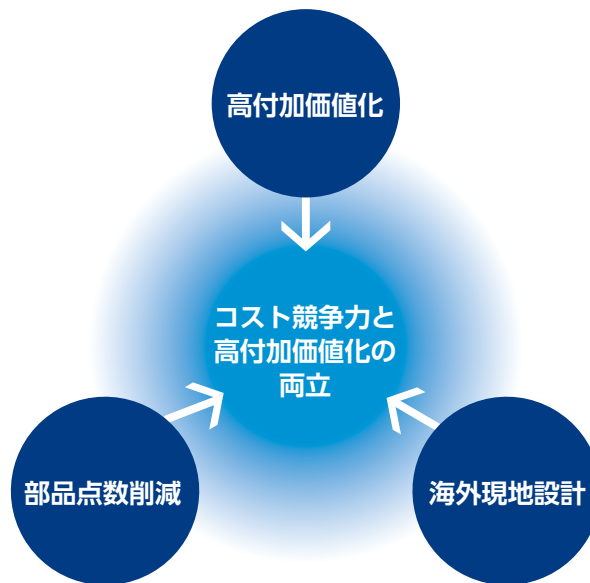
船井電機を取り巻く経営環境は、貿易摩擦の影響、グローバルな競争相手の出現などにより厳しさを増しています。

この厳しい競争を勝ち抜くには、船井電機の強みである世界トップクラスの価格競争力に加えて、お客様に選んでいただける魅力ある製品の開発を両立していく必要があります。

コスト競争力という点では、部品点数の削減、共通化及び海外 R&D を使った新規現地部品の発掘、開発固定費の削減などを推し進めています。設計業務を一部マレーシアや中国などの開発拠点で行い、開発期間の短縮と工数の削減、現地部品調達の効率化を推進しています。

お客様に選んでいただける高付加価値商品を創出するために、短期的な開発だけでなく、中長期的な開発テーマを見据えて、優位性構築に結び付ける付加価値技術を取り込んでいきます。

設計の考え方



**Production 生産**

## 生産性向上への挑戦

船井電機は、高品質かつコストパフォーマンスの高い製品を提供するために、

独自の FPS (Funai Production System) で、生産性の向上を継続的に追求しています。

船井電機独自の生産システム FPS (Funai Production System) は、生産ラインにあえて負荷をかける（構成員を減らす、ベルトコンベアのスピードを上げる）ことにより、生産プロセスの問題点を発見し、自発的な改善を促す生産性向上活動です。

このサイクルを繰り返すことで、現行生産体制の課題発見とともに生産スタッフの自発的な改善意識も養われ、継続的な生産性の向上が図れます。当社は FPS を持続的な成長を実現する原動力と位置づけ、更なる生産向上に向け取り組んで参ります。

継続的に生産性を向上する FPS



## 世界各地の市場ニーズをキャッチ

船井電機は、世界各地の市場特性を踏まえた販売戦略を展開しています。世界最大の北米市場では、有力量販店との関係を強化して市場のニーズを的確に把握し、トップクラスのシェアを維持。2017年からは日本国内でも、最大手の家電量販店ヤマダ電機で『FUNAI ブランド』の独占販売を開始しています。

販売チャネルとの緊密な関係を活かして市場のニーズや最新トレンドを的確に把握し、高品質かつコストパフォーマンスに優れた製品を提供する、船井電機の販売戦略。

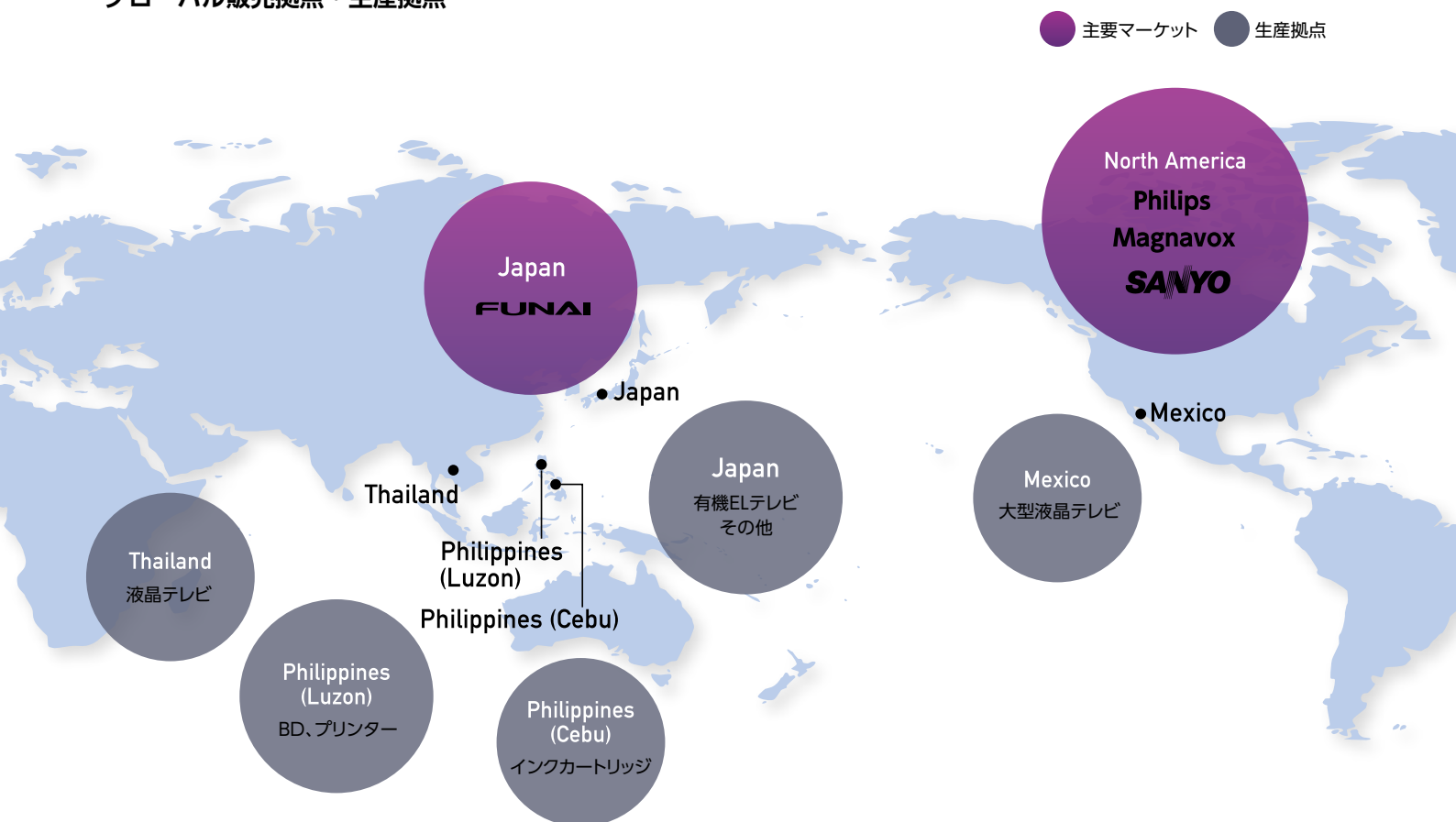
主力製品である液晶テレビでは、北米における日本メーカーのなかで出荷台数はトップシェア<sup>\*</sup>を誇っています。また日本国内市場でも、2017年6月からヤマダ電機での『FUNAI ブランド』の独占販売がスタートし、2020年6月よりハードディスク内蔵有機ELテレビとして初めてAndroid TV™を採用した7030シリーズを含む4シリーズ全10機種の発売を開始し、全国のヤマダ電機グループで独占販売を行っているFUNAIブランドテレビのラインナップを刷新しました。市場のニーズに応じた製品開発・販売戦略を進め、市場での

プレゼンスを着実に高めています。

プリンター関連製品については、当社が保有するサーマルインクジェット技術を応用した製品であるネイルアートプリンターを市場へ投入し、好評を得ております。また、新規事業については、介護・医療機器関連の開発・生産を進める一方、アライアンス戦略のもと、小型電気自動車開発のベンチャーであるFOMM社、世界最大の日用消費財メーカーP&G社、日本最大の映像プラットフォーム「ひかりTV」を提供しているNTTぷらら社、ROKI社などと提携をしており、次世代のニーズを見据えた製品開発を展開しております。

※2014年～2019年 船井液晶テレビ 北米出荷シェアにおける日本メーカーとの比較 IHS Markit調べ

### グローバル販売拠点・生産拠点



# 持続可能な社会の実現に向けて

## 経営の柱の一つとして、環境活動への取り組みも積極的に推進

船井電機は、設立以来、機能性を重視した電機製品の優れた供給力とコストパフォーマンス性をセールスポイントに、映像機器分野において絶大なる信頼を築き上げてきました。

これまでの足跡のなかで培われた当社独自の生産システムである FPS (Funai Production System) や、メカトロニ

クス技術力、グローバルな最適地生産・販売体制は当社の最も重要な経営資源であり、厳しい業界競争を生き抜く最大の武器であると考えています。

また、これまで以上に品質、納期、コスト面に磨きをかけ、常に時代の要請に応えられる製品を世界へ送り出していきたいと願っています。

そのなかで、経営の柱の一つとして、環境活動への取り組みにつきましても積極的に進めています。

当社の事業所での活動と製品における活動を環境活動の両輪として、継続して推進しています。

## 製品における活動と実績

「より良い製品を、より厚い信用を、より実りある共存共栄を」の社は精神のもと、お客様にご満足いただける高品質かつ地球環境にやさしい製品の設計・製造を行っております。

具体的には、「原材料の使用量を削減するための省材料設計」、「製品の使用時および待機時の消費電力を削減する省エネ設計」、「製品のスリム化や軽量化により製品輸送を効率化し運搬時の環境負荷を削減する省運搬設計」、「人体や環境へのリスクを最小化する製品への有害化学物質含有管理」を軸として環境に配慮した製品設計を進めております。また、社内に環境に配慮した設計を推進する全社横断的組織を設置し、継続的な活動を行っております。

### ●グリーン調達活動

グループ企業行動憲章の理念のもと、地球環境の保全に努めており、その一環として、製品に含有する化学物質による人体や環境へのリスク低減を推進しております。このリスク低減に向け

て、当社では「グリーン調達基準書」を制定し、当社のみならず部品/材料メーカーも含めたサプライチェーンを通じて、環境にやさしい部品/材料の調達を行っております。

具体的には、世界各国で規制が行われている有害な化学物質を禁止・制限するとともに、当社の部品/材料調達先と協力して、有害な化学物質が製品に入らない製品含有化学物質管理システムを構築・運用しております。

### ●地球温暖化防止の取り組み

一般社団法人 日本経済団体連合会が推進する「低炭素社会実行計画」に電機・電子温暖化対策連絡会を通じて参画し、企業活動による地球温暖化対策に取り組んでおります。

製品開発においては、「地球温暖化ガス (CO<sub>2</sub>) の削減」を製品開発の指標のひとつとして掲げ、「消費電力の削減」、「製品の小型化」、「輸送の効率化」など多方面にわたる新たな課題を克服しながら、地球温暖化防止に貢献できる全社的取り組みを継続しております。



### ●製品アセスメントの取り組み

当社では、環境への負荷を減らす製品づくりのため、製品の生産から廃棄までの間に発生する環境への負荷を省エネ・省資源・リサイクル・有害物質の含有等の面から評価する「製品アセスメント」を毎年実施し、より環境負荷の小さい製品の設計開発に役立てております。





## 環境に配慮した製品開発



船井電機では、企業行動憲章の理念のもと、地球環境の保全に努めており、その一環として、製品に含有する化学物質による環境負荷の低減を推進しております。

この環境負荷の低減に向けて、当社では調達取引先と協働して、当社および当社取引先での含有化学物質管理体制を構築するとともに、環境への負荷が大きい化学物質の製品への含有禁止に取り組んでおります。

J-Moss とは、日本において電気電子機器に含有される化学物質の表示に関する JIS 規格の略称です。

JIS C 0950：2008 に基づき特定の製品群（テレビ、パーソナルコンピュータ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、衣類乾燥機）に対して特定化学物質\*の含有表示が法令で義務付けら

れています。また、含有率が基準値以下の場合には、「J-Moss グリーンマーク」を表示することができます。

船井電機のテレビにおいては、設計段階から環境に配慮した材料・部品を選定し、「J-Moss グリーンマーク」の基準を満たしております。

\* 鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリブロモフェニル、ポリブロモフェニルエーテルの6物質が対象

## 人材教育/社員の健康管理への取り組み



当社グループでは、創業の精神を体現し、グローバルに活躍する人材、プロフェッショナルな人材を育成することを最重要課題として捉えており、入社後の教育・研修にも力を注いでいます。

新人社員に対しては、社会人としての基礎知識と仕事の進め方の習得を目的として、毎年4月に新入社員研修を実施しています。職種に関わらず3カ月間の海外工場研修を実施し、当社独自の生産方式であるFPS (Funai Production System) の考え方を修得しています。ビジネススキル、技術スキル向上へ意欲的な従業員の自己啓発を促すため、社内外の講師によるスキルアップ研修を常時開催しているほか、管理職や専門職のマネジメントスキル向上のため、定期的に階層別研修を実施しています。

グローバルな人材として不可欠な語学力については、各種英語研修を実施、昇進昇格要件にTOEICスコアを導入して英語力向上に対するモチベーションの維持を図っています。

一方で、健康な状態で仕事に向かい、一人ひとりが能力を発揮するために、

従業員の健康管理についても積極的に取り組んでいます。全従業員参加の「健康づくり運動」の実施をはじめ、健康や栄養に関する情報提供、産業医による健康管理講座を開催しています。

また、厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」を受けて、「心の健康づくり計画」の策定に取り組み、社内体制を整備し、相談窓口を設けてメンタルヘルス対策に取り組んでいます。



# コーポレート・ガバナンス

## 【コーポレート・ガバナンスの概要】

船井電機は、株主、消費者、取引先、地域社会、社員等の社内外のステークホルダーに対する経営の透明性を高め、経営の健全性・効率性を確保し迅速な意思決定を図ることで経営環境への変化に対応し、継続的な企業価値の向上を図っていくことをコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方としております。

この考え方に基づき、当社は機動的な意思決定と迅速な業務執行体制の確立を図るため、執行役員制度を導入しております。

また、当社では船井グループの全役員及び社員の行動規範として「船井グループ企業行動憲章」並びに本憲章を基本とする「船井グループ調達方針」を制定し、これを推進する組織として「CSR（企業の社会的責任）委員会」を設置し、CSR 活動を推進しております。

## 【企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由】

当社は、コーポレート・ガバナンスの体制として、監査等委員会設置会社を採用し、取締役会、監査等委員会及び会計監査人を設置しております。これは、取締役会の議決権を有する監査等委員である取締役が監査を行うことにより、取締役会の監督機能の強化及びコーポレート・ガバナンスの充実を目指すものであります。

一方、迅速な業務執行体制の確立を図るため執行役員制度を導入しております。また、監査等委員会以外に、取締役会の任意の諮問機関として「指名委員会」、「報酬委員会」及び「投融資審議会」を設け重要な意思決定プロセスの客観性及び透明性を確保しております。

## 【取締役会】

監査等委員を除く取締役6名（うち社外取締役2名）及び監査等委員である取締役3名（うち社外取締役2名）の計9名で構成されております。事業内容に精通した社内取締役による迅速な意思決定が図られる一方、当社とは特別の利害関係が無い社外取締役が取締役会の意思決定に参加することで、経営の健全性・透明性が担保されております。当社の取締役会は、社外取締役が取締役総数の3分の1以上を占めており、より客観的で、公平且つ公正な意思決定をなし得る体制となっております。

## 【諮問機関】

### ・指名委員会

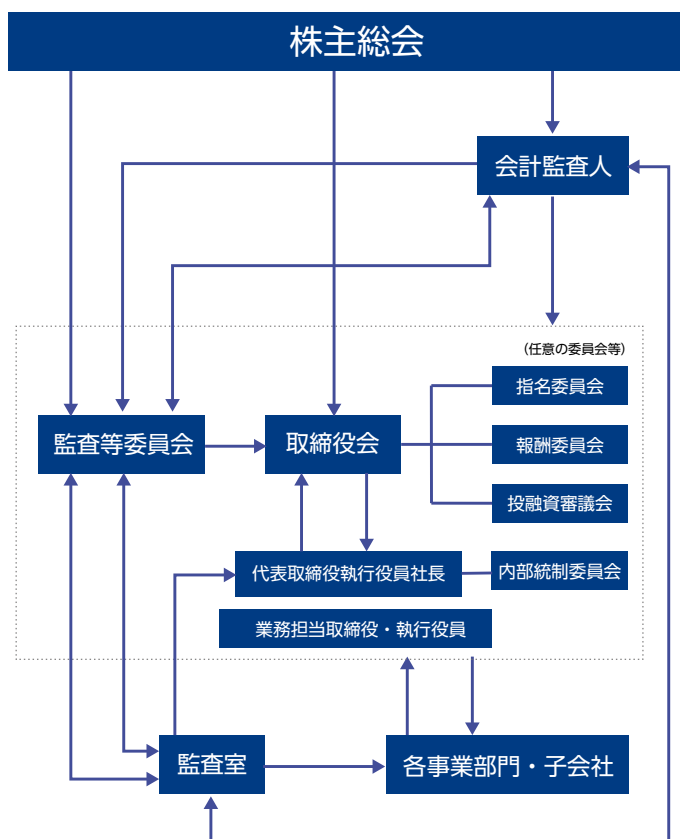
取締役の中から取締役会が選定したメンバーで構成されており、取締役会の諮問機関として取締役会に対し取締役候補者等の推薦を行うことで、取締役候補者等の選定プロセスの透明性と客観性を確保しております。

### ・報酬委員会

取締役の中から取締役会が選定したメンバーで構成されており、取締役会からの委任を受けて、監査等委員を除く取締役及び執行役員の報酬等を決定することで、報酬決定プロセスの透明性と客観性を確保しております。また、監査等委員の報酬等につきましては、監査等委員である取締役の協議によって決定しております。

### ・投融資審議会

取締役及び執行役員の中から社長が選定したメンバーで構成されており、当社における重要な投融資案件について、個別にその内容を全社的観点に立って審議することで、投融資案件の可否判断プロセスの透明性と客観性を確保しております。



## 地域・社会でのさまざまな活動

### FUNAI ブランド浸透を図る

#### ロサンゼルス・エンゼルスとパートナーシップを継続

2018年2月、当社は、米国メジャーリーグ『ロサンゼルス・エンゼルス』とパートナーシップ契約を締結しました。エンゼルスには“二刀流”大谷翔平選手が在籍しており、日本だけでなく米国においても大きな注目を集めています。パートナーシップ契約の主な内容は、エンゼルのホームゲーム試合後のヒーローインタビュー会見会場「メディアバナー」において、FUNAI ロゴおよびエンゼルスロゴを併記したボードを設置するほか、大谷選手が出場した試合後のインタビューもこのメディアバナー前で行われます。また、エンゼルス本拠地のエンゼル・スタジアム・オブ・アナハイムで行われるホームゲームで大谷選手出場予定 21 試合中 11 試合で固定のホームプレート広告が掲出されます。今シーズンの新たな取り組みとしてピッチャーマウンドの広告を掲載しました。

### サッカーJリーグ「SC 相模原」とスポンサー契約を更新



(写真提供 SC 相模原)

2020年6月、当社は、プロサッカーJリーグのクラブ「SC 相模原」とスポンサー契約を更新しました。FUNAI ロゴが SC 相模原の公式ユニフォームパンツに表示されます。そのほかにも SC 相模原公式ホーム試合やイベント時に使用するインタビューボード、ゴール裏側に設置する場内看板、公式ホームページや公式発行物などにも、FUNAI ロゴが表示されます。

神奈川県相模原市、座間市、綾瀬市、愛川町をホームタウンとする SC 相模原は、現在 J3 リーグに所属、2019 年シーズンからは元日本代表の稲垣潤一選手が移籍し話題を集めています。

このスポンサー契約を通じて、同チームの活動を支援することで、スポーツの振興・活性化に貢献し、より多くの方に当社グループへの関心を持っていただく機会を作り、ブランドの浸透につなげていきたいと考えています。

### 社会貢献・協賛活動

米国では、「“Children’s Miracle Network”：子供の病気を治療する病院へのサポート」に船井グループとして協賛し、慈善事業に参加しております。

当社はまた、「“Sharing & Caring”：Holiday Season に恵まれない子供たちへのサポート」に Walmart や Sam’s Club と協賛して参加し、当社 TV と DVD 製品を寄付いたしました。

これらの活動を通して、子供たちの夢をかなえ、生きる力や病気と闘う勇気をもってもらいたいと願っており、ご家族、また紹介者や寄贈者などのスポンサーなどコミュニティ全体に貢献して参ります。



### 地元に密着した貢献活動

本社の所在地である大阪府大東市のふるさと納税の返礼品として、当社製品を採用していただいております。2019 年度は約 4000 台のお礼の品を提供しており、大東市のふるさと納税を通して地域活性化に大きく貢献すると共に、当社の知名度向上を図っています。



# 製品開発の軌跡とともに 船井電機の歴史をご紹介します。

## 1960s

- 1961年8月 ● 大阪市生野区に資本金20百万円にて船井電機(株)を設立(船井軽機工業(株)のトランジスタラジオ部門を分離独立)
- 1964年3月 ● 広島県深安郡(現福山市)に生産会社として中国船井電機(株)(現連結子会社)を設立
- 1968年5月 ● 台湾高雄市に海外初の大規模生産拠点として台湾船井電機股份有限公司を設立
- 1969年4月 ● 大阪府大東市に新社屋竣工(現本店所在地)

## 1970s

- 1970年9月 ● 米国に販売拠点としてFUNAI AMERICA ELECTRIC SERVICE CORP.(後にFUNAI USA CORP.)を設立
- 1976年9月 ● 本店を大阪府大東市に移転

## 1980s

- 1980年6月 ● ドイツ ハンブルグに販売拠点としてFUNAI ELECTRIC TRADING (EUROPE) GmbHを設立
- 1983年7月 ● 東京都千代田区に東京支店を設置
- 1987年3月 ● 国内市場に本格参入

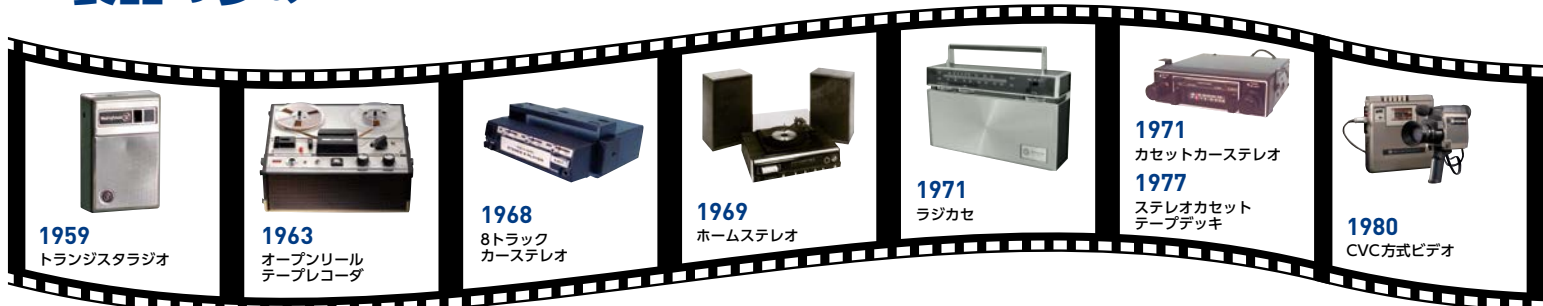
## 1990s

- 1992年3月 ● 香港に中国広東省で委託加工を行うため、嘉財実業有限公司(現船井電機(香港)有限公司、現連結子会社)を設立
- 1996年1月 ● 国内サービス拠点として船井サービス(株)(現連結子会社)を設立
- 1999年2月 ● (株)大阪証券取引所市場第二部に株式を上場

## 2000s

- 2000年3月 ● (株)東京証券取引所市場第一部に株式上場、並びに(株)大阪証券取引所市場第一部に指定
- 2000年11月 ● 船井軽機工業(株)を吸収合併
- 2001年3月 ● 決算期を6月15日から3月31日に変更
- 2003年7月 ● タイ ナコンラーチャシーマーに生産拠点としてFUNAI (THAILAND) CO., LTD.(現連結子会社)を設立
- 2006年10月 ● ポーランド ルブシュに生産拠点としてFUNAI ELECTRIC (POLSKA) Sp. z o.o.を設立

## 製品の歩み



**1959**  
トランジスタラジオ

**1963**  
オープンリール  
テープレコーダ

**1968**  
8トラック  
カーステレオ

**1969**  
ホームステレオ

**1971**  
ラジオカセ

**1971**  
カセットカーステレオ  
**1977**  
ステレオカセット  
テーブデッキ

**1980**  
CVC方式ビデオ

当社の前身である船井軽機工業(株)で生産が開始され、当社設立のきっかけとなったトランジスタラジオ。  
米欧大手メーカー向けのOEMを中心に爆発的な売れ行きとなりました。

回転機構の制御技術を中心としたメカトロニクス技術を応用し、さまざまな製品の製造技術に展開できるようになりました。

8トラックカーステレオは当時世界一の生産台数を記録しました。

当社独自開発のコンパクト型ビデオカセットレコーダ。世界で初めてエベレスト山頂からのビデオ撮影に成功するなど、その高い技術力が注目を集めました。



**1994**  
エアコン

**1997**  
インクジェットプリンター

**1999**  
DVDプレーヤ

**2000**  
レーザービームプリンター

**2002**  
プロジェクター

**2002**  
液晶テレビ

**2004**  
DVDレコーダ

米大手プリンターメーカー向けOEM製品。量産化に成功しました。

2000年代に北米でトップシェアを獲得しました。

2000年にはインクジェットプリンターに続いてモノクロレーザービームプリンターの生産を開始しました。

米プロジェクター専門メーカー向けOEM製品。

生産を開始して数年後には北米でトップシェアを獲得しました。

自社ブランドに加え、大手他社からのOEMを受注し、世界でトップクラスのシェアを獲得しました。

- 2007年9月 ● マレーシアに開発拠点としてBROADTEC TV R&D CENTER SDN. BHD. (現FUNAI MALAYSIA R and D SDN. BHD.) を設立
- 2007年10月 ● 米国 オハイオにサービス拠点としてFUNAI SERVICE CORPORATION (現連結子会社) を設立
- 2008年6月 ● 米国 ジョージアに販売拠点としてP&F USA, Inc. (現FUNAI CORPORATION, INC.、現連結子会社) を設立
- 2009年4月 ● メキシコ メヒコに販売拠点としてP&F MEXICANA, S.A. DE C.V. (現連結子会社) を設立

## 2010s

- 2011年6月 ● 中国に開発拠点としてFUNAI ELECTRIC R&D (SHENZHEN) CO., LTD. を設立
- 2013年4月 ● フィリピン バタンガスに生産拠点としてFUNAI ELECTRIC PHILIPPINES INC. (現連結子会社) を設立
- 2013年4月 ● Lexmark International, Inc.よりインクジェットプリンター関連製品製造子会社 (現FUNAI ELECTRIC CEBU, INC.、現連結子会社) の全株式取得
- 2015年6月 ● 監査等委員会設置会社に移行

- 2016年4月 ● メキシコ ティファナに生産拠点としてFUNAI MANUFACTURING, S.A. DE C.V. (現連結子会社) を設立
- 2017年5月 ● 船越秀明が代表取締役執行役員社長に就任
- 2017年6月 ● 「FUNAIブランド」テレビ、BDレコーダのヤマダ電機での独占販売開始
- 2017年7月 ● 創業者 船井哲良が逝去
- 2018年4月 ● P&F USA, INC. (現連結子会社) を合併存続会社としてFUNAI CORPORATION, INC. を吸収合併 P&F USA, INC. (現連結子会社) の社名をFUNAI CORPORATION, INC. に変更
- 2019年6月 ● 株式会社NTTぷららと業務提携
- 2019年10月 ● 株式会社ROKIと業務提携

## 2020s

- 2020年5月 ● プレキシオン株式会社を子会社化



**1983**  
VHS方式ビデオ

CVCの開発で培った技術力をベースに、VHS方式のビデオを展開しました。その後、モーター、シリンダーなどの基幹部品を含むビデオメカデッキの内製化に成功し、製品競争力が飛躍的に向上しました。



**1983**  
コードレス電話機

家庭用コードレス電話を開発し、通信機器事業に参入しました。世界初のアンテナレス・コードレス電話機を開発しました。



**1985**  
電子レンジ



**1985**  
テレビデオ  
**1986**  
ブラウン管テレビ

ブラウン管テレビとビデオを一つにしたビデオ内蔵型テレビ。1990年代後半から2000年代前半にかけて大きく伸長し、北米で60%超のシェアを獲得しました。



**1987**  
自動製パン器

世界初の自動製パン器1号機。「らくらくパンだ」の商品名で発売。当社の日本市場本格参入第1号製品。日本経済新聞社の年間優秀製品賞「最優秀賞」を受賞しました。



**1988**  
ファックス



**1989**  
レーザーディスクプレーヤー

FUNAIブランドとして、初めて国内大手量販店全店舗に展開された製品。その後業務用としても販売されました。



**2004**  
デジタルスチルカメラ

米大手カメラメーカー向けOEM製品。



**2008**  
ブルーレイディスクプレーヤー

DVDより高画質な新世代光ディスク規格に参入しました。



**2009**  
ブルーレイディスクレコーダー

日本においては、2011年の地デジ移行に伴い記録のヒットとなりました。



**2012**  
LED照明



**2013**  
スティック型スマートテレビ端末

スティックタイプの小型STBをテレビに接続することで、普通のテレビがAndroid™ 4.0搭載のスマートテレビになる端末を、通信キャリア向けに開発し販売しました。



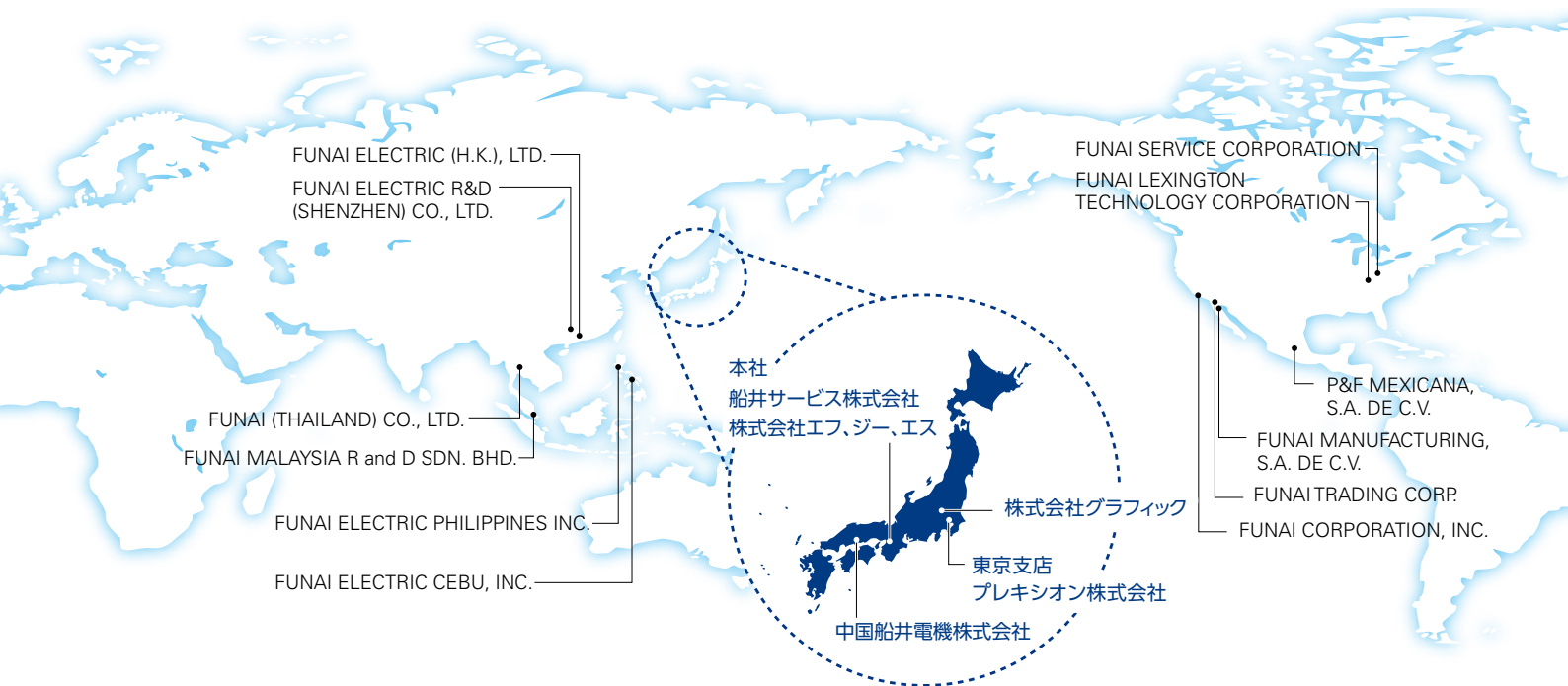
**2018**  
有機ELテレビ

史上初となるハードディスク内蔵有機ELテレビの株式会社ヤマダ電機における独占販売を開始しました。



**2019**  
ネイルアートプリンター「CureNel」

誰でも簡単に短時間で自分の爪にプリントして楽しめる、まったく新しい商品の販売を開始しました。



**社名** 船井電機株式会社  
**設立** 1961 (昭和 36) 年 8 月  
**住所** 〒 574-0013 大阪府大東市中垣内 7 丁目 7 番 1 号  
 TEL 072-870-4303 FAX 072-871-1112  
 URL <https://www2.funai.co.jp>  
**資本金** 313 億 07 百万円 (2020 年 3 月末現在)  
**売上高** 884 億 25 百万円 (2020 年 3 月期)  
**社員数** 2,166 名 (2020 年 3 月末現在)  
**業種** 電気機器  
**主な事業内容**  
 ディスプレイ事業 薄型テレビ  
 デジタルメディア事業 BD プレーヤ／レコーダ  
 プリンティング プリンター  
 ソリューション事業 インクカートリッジ  
 開発・新規事業 その他機器

**事業所・子会社**  
**事務所** 本社  
 東京支店  
**販売子会社** FUNAI CORPORATION, INC.  
 FUNAI TRADING CORP.  
 P&F MEXICANA, S.A. DE C.V.  
**製造子会社** 中国船井電機株式会社  
 FUNAI MANUFACTURING, S.A. DE C.V.  
 FUNAI ELECTRIC (H.K.), LTD.  
 FUNAI (THAILAND) CO., LTD.  
 FUNAI ELECTRIC CEBU, INC.  
 FUNAI ELECTRIC PHILIPPINES INC.  
**研究開発子会社** FUNAI ELECTRIC R&D (SHENZHEN) CO., LTD.  
 FUNAI MALAYSIA R and D SDN. BHD.  
 FUNAI LEXINGTON TECHNOLOGY CORPORATION  
**その他子会社** 船井サービス株式会社  
 株式会社エフ、ジー、エス  
 株式会社グラフィック  
 プレキシオン株式会社  
 FUNAI SERVICE CORPORATION

**役員一覧 (2020 年 6 月 30 日現在)**

**取締役**

代表取締役 執行役員社長 船越 秀明  
 取締役 常務執行役員 上島 誠  
 取締役 執行役員 伊藤 武司  
 取締役 執行役員 足立 元美  
 社外取締役 米本 光男  
 社外取締役 白上 篤

**取締役 (監査等委員)**

取締役 木寺 文明  
 社外取締役 山田 拓幸  
 社外取締役 田中 崇公

**執行役員**

執行役員 大浦 久治  
 執行役員 榎原 将永



**船井電機株式会社**

〒 574-0013 大阪府大東市中垣内 7 丁目 7 番 1 号  
 TEL 072-870-4303 FAX 072-871-1112  
 URL <https://www2.funai.co.jp>

